

冬季企画展 Juhachi-Shinwa Art Gallery Winter Exhibition

紙と表現

開催中

2024.12.13(金) → 2025.3.8(土)



田川 憲《長崎の谷》1966年制作 木版・紙

当館の絵画コレクションは油彩画が中心ですが、その中にはドローイング、水彩画、版画など紙に表現された作品も複数、含まれています。現在、開催中の冬季企画展では、棟方志功の肉筆画、山下清の貼り絵、郷土ゆかりの旭達文の版画、北村綱義のパステル画などを公開しています。

その内の1点、田川憲の木版画《長崎の谷》は、横長の画面に高台から望む景色が広がっています。草木が茂る中に連なる家並みと、その合間を縫うように延びる道路は中景の市街地へ吸い込まれていくようです。黒く太い線で強調された山肌と斜面、谷間に密集する住宅地の姿は、灰色の版と余白の白によって陰影と奥行きが明確になり、画面に広がる光景を印象深いものにしています。また、本作の左下に彫られている「NAGASAKI'66 (Esquisse'56)」は、下絵を描いたのが1956年、版画として制作したのが1966年であることを示しています。時代とともに変わりゆく長崎の姿を版画に遺した田川憲の眼差しが感じられる作品です。

陶磁器展示室2では、陶磁器小企画「煌めく釉薬」を2025年3月1日(土)まで開催しているほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。

※企画展の会期は、次回展の都合により変更する場合があります

田川 憲(たがわ・けん):1906~1967。長崎市生まれ。高校卒業後に洋画家を志して上京、恩地孝四郎に出会い創作版画に転向。1933年に帰郷し「詩と版画の会」を結成、版画誌刊行や講習会開催など長崎での創作版画の普及に尽力。戦時中は従軍画家として中国へ渡り、戦後は再び長崎を拠点に洋館や唐寺などが残る長崎の風景を数多く描き残した。2018年長崎県美術館にて回顧展開催。

十八親和アートギャラリー

鑑賞 無料

【開館時間】10:00~16:00(入館は15:30まで)

【休 館 日】日・月・祝日、年末年始(12/30~1/4)

※土曜日が祝日の場合は開館



長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856 西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分